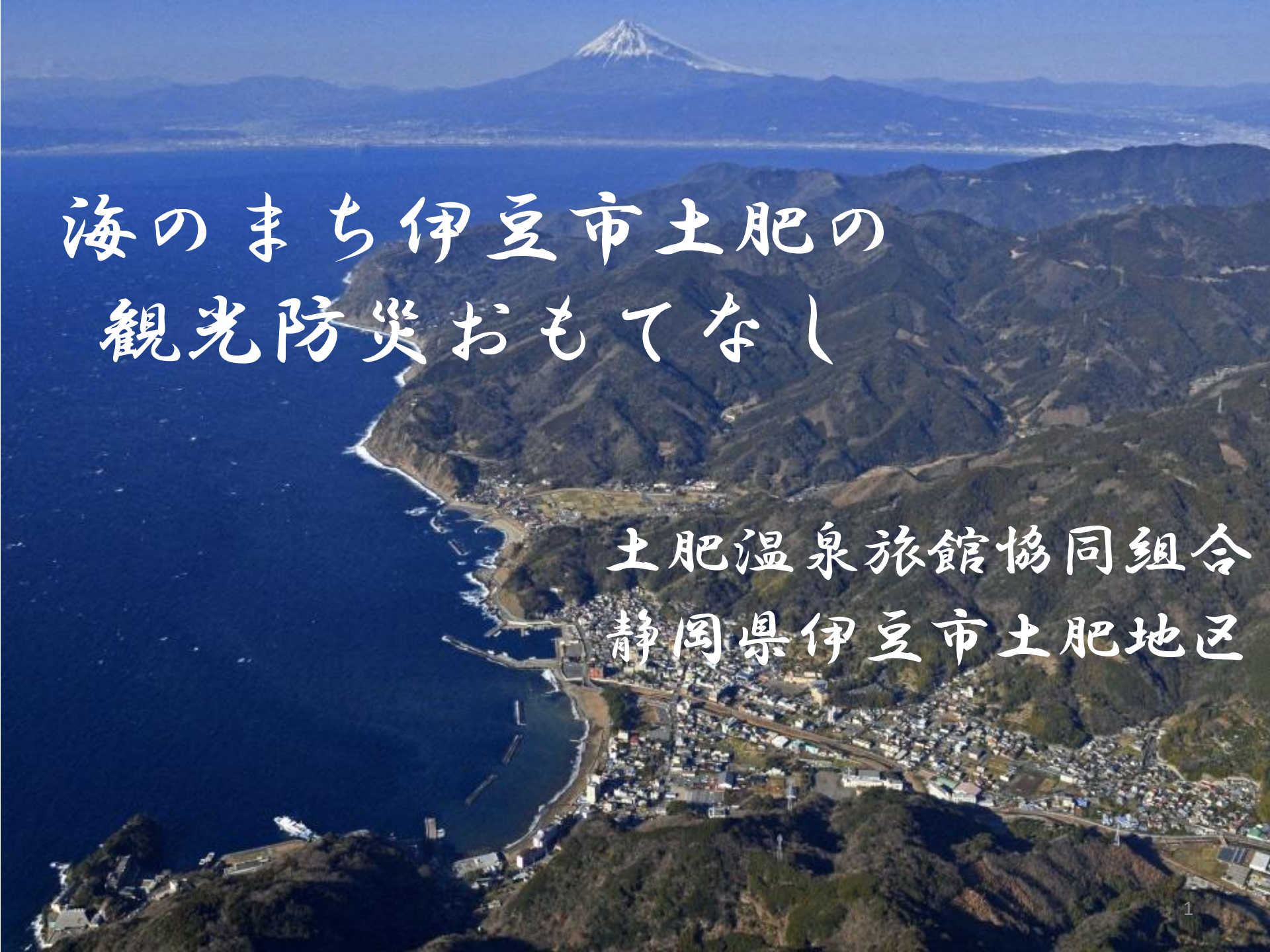


An aerial photograph of the Izu Peninsula in Japan. In the background, Mount Fuji is visible with its snow-capped peak. The foreground shows a coastal town with a harbor, surrounded by steep, forested hills. The sea is a deep blue, and the sky is clear.

海のまち伊豆市土肥の 観光防災おもてなし

土肥温泉旅館協同組合
静岡県伊豆市土肥地区

伊豆市の概況



伊豆市の位置

土肥地域

伊豆半島ジオパークは
ユネスコ世界ジオパークに認定！

西伊豆 土肥温泉の紹介



★恋人岬



❁土肥桜



🕒世界一の花時計



●旅人岬



♨️足湯



🍷土肥特産市「ありがとう」

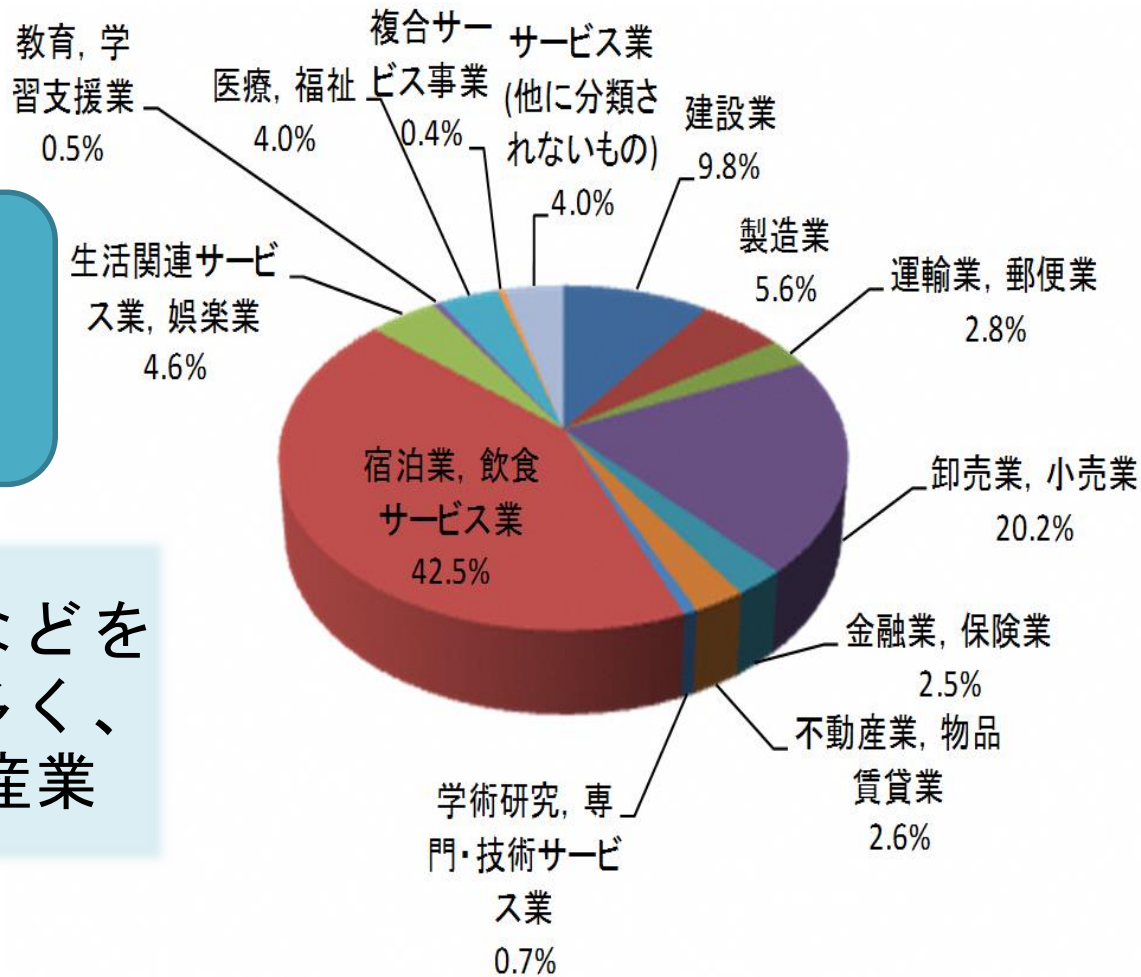
土肥地域の産業

土肥地域の年間
観光交流人口約100万人、
宿泊客数約35万人

宿泊業やサービス業などを
なりわいとする人が多く、
観光は土肥地域の主要産業



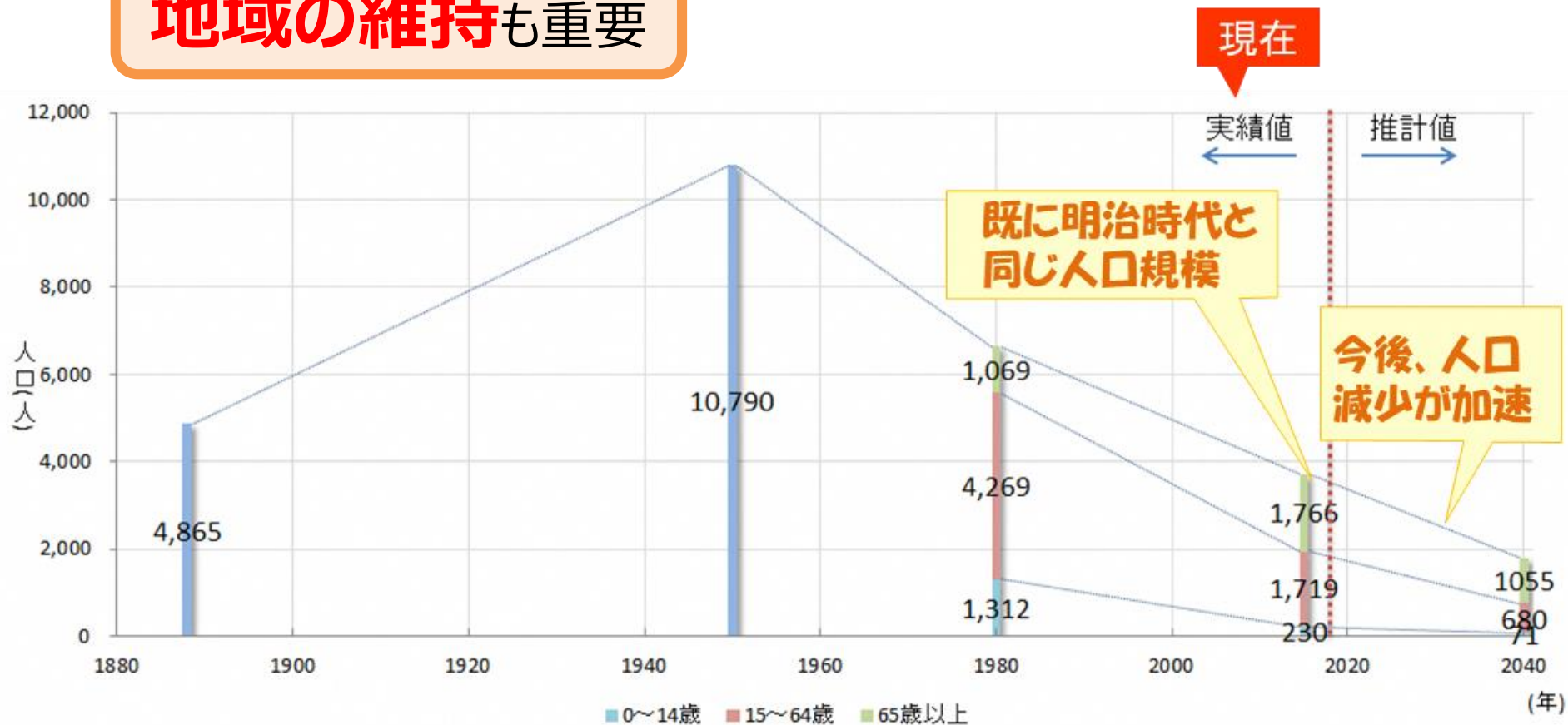
観光がダメになると**土肥の地域もダメ**になってしまう



土肥地域の人口

現在の人口は明治時代とほぼ同じにまで減少しています。
高齢化も進んでいます。

地域の維持も重要



地震発生から**6分後に土肥地域の沿岸に到達**すると想定されています。

6

土肥で始まった観光防災まちづくり

観光・環境・防災のバランスがとれたまちづくりに向けて
土肥地域一丸となって取り組みを推進

土肥温泉旅館協同組合

伊豆漁協土肥支所
伊豆市観光協会土肥支部
伊豆市商工会土肥支部

伊豆市区長会
土肥地区区長
土肥地区区長
土肥・小土肥地域づくり協議会
西豆地区地域づくり協議会
民生委員（土肥地区）
土肥中学校PTA会長

東京大学生産技術研究所
准教授 加藤孝明
静岡大学防災総合センター
准教授 原田賢治

国土交通省
静岡県
伊豆市

土肥温泉旅館協同組合も推進協議会の委員として参画

がんばる地域宣言

地震・津波対策がんばる地域宣言

わたしたち 土肥温泉旅館協同組合 は、

『宿泊者に地震・津波リスクへの啓発活動の強化』

をすることを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○ 伊豆市と連携し、啓発文章をお客様へ配布致します。

○ 静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合と連携し、情報収集に努めます。

○ 当組合危機管理委員会を定期開催し、組合員に情報提供します。

といった取り組みを、できる範囲で、
地域のみなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

平成 29 年 9 月

地域が主体となり、津波防災に積極的に取り組んでいる地域であることを対外的にアピールし、互いに刺激し合い、新たな取り組みを創り・持続させる”がんばる地域宣言”を作成

現時点で19のがんばる“地域宣言”が作成されています！

地域の一員として、

組合としてできる地域の安全・

安心を考えるキッカケとした

観光防災まちづくりのぼり旗

観光防災まちづくりのぼり旗設置



写真以外のさまざまな
場所にも、のぼりを
設置いただいています！



地域が取り組む姿の**見える化**を図っている

丁寧なリスクコミュニケーション

各地区意見交換会



これまでに地域で25回以上
開催されています！

ライフセーバー研修



ケアマネージャー意見交換会



中学生と考える会

伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを
土肥中生と考える会

昨年度は2回にわたって開催
されました！（今年度も開催予定）



観光防災まちづくりを**さまざまな団体・**
世代が考える機会が増えている

区域の愛称決定

区域の愛称決定

全国初！



区域指定が及ぼす**地域の**
イメージをプラスに転換
するための**愛称**を設定

区域指定・愛称決定の記念イ
ベントで連携して情報を発信！

海のまち安全創出エリア

意味・・・今後、更なる危険性(リスク)をこれ以上、増やさないための取り組みを行うエリア

愛称に込めた思い・・・地震・津波からの避難が難しい高齢者や乳幼児等が、津波を「避け」て助かるように、安全にするための取り組みをつくりだし、積み重ねていくエリアに！

海のまち安全避難エリア

意味・・・津波の危険性を十分に理解し、対処方法、避難方法をきちんと準備しているエリア

愛称に込めた思い・・・万が一地震・津波による災害が起こった場合でも安全に「逃げる」ことができるよう、取り組みをみんなで頑張っていくエリアに！



観光と連携した訓練

宿泊施設連携訓練



観光施設土肥金山連携訓練



H29から毎年実施



お客さまのための

避難経路・避難誘導体制を検証



グランプリ受賞

ジャパン・レジリエンス・アワード
(国土強靱化大賞)2018
グランプリ受賞



土肥地域の**先駆的な取り組み**が全国的に評価された

地区防災計画 1 / 3

がんばる地域宣言を基に、土肥温泉旅館協同組合の”地区防災計画”作成を進めている

現在土肥地域
では5団体が
検討中

いざという日に備える地域の取り組みルール

◎避難行動の考え方(反射的に動けるようになることが理想！)

大きなゆれがきたら・・・

- 来訪者（屋外） ⇒ 指定避難ビルの中へ（屋外サインで誘導）
- 来訪者（館内） ⇒ 高い階層へ避難（施設内誘導サインで避難）
- 従業員（館内） ⇒ 自分の安全を確保した上で、
宿泊客をなるべく高いフロアへ誘導

発災時の来訪者
がいる場所に応じ
て設定

さらに安心して来訪していただくために（今後の課題）

- 必要な備蓄・数量・保管場所(調査H30～)
- 一時的な避難後の宿泊客等の誘導方法
- 宿泊客の帰宅までのサポート方法
- 各施設による計画作成の支援方法
- 施設間や市役所との相互調整の方法(災害時の宿泊客リストの共有方法 等)
- より高度な避難誘導訓練等を行うための支援
- 新たな取り組みに必要な支援の提案(避難・備蓄のスペース確保、耐震診断の推進方法 等)¹⁵

今すぐ解決が難しい
取り組みは、課題と
して計画に明記

地区防災計画 2 / 3

いざという日のために備えておく普段の取り組み

視点	取り組み	目標	備考
共生する	☐ 地震・津波による被害状況の理解に資する情報発信	全施設所有者	
	☐ 避難時間計測の推進	全施設所有者	
	☐ 海のまち安全確保エリア、海のまち安全創出エリアの理解に資する情報発信	全施設所有者	
	☐ 無線通信機器運用の手引き作成	年_____回	チャンネル操作・報告方法、時間外の代行の方法を整理
	☐ 無線通信機器運用訓練の企画・実施	年_____回	手引き記載内容の習得
	☐ 避難誘導訓練の企画・実施	年_____回	
	☐ 安心・安全への取り組みに関する情報発信	年_____回	
	☐ 防災資源を組み合わせたツアーの検討	年_____回	
逃げる	☐ 設備等の固定するための情報提供	全施設数	
	☐ 津波避難が可能な施設の把握	全施設数	
	☐ 観光客のための避難誘導計画作成の推進	全施設数	
	☐ 津波避難誘導に係る研修実施状況の把握	全施設数	
	☐ 従業員の対応マニュアルの整備の推進	全施設数	
	☐ 避難路・避難場所の点検・管理	年_____回	16
	☐ 避難所や防災倉庫の点検・管理	年_____回	

リスクと“共生する”、
発災後の“逃げる”こ
とを中心とした組合の
取り組み・目標を設定

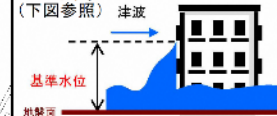
地区防災計画 3/3

避難が可能な場所や備蓄場所について、基準水位を踏まえた各施設への実態調査を予定している

調査結果をもとに、
避難後の“生き延びる”ための
取り組みを検討

き区域です。
○「津波災害特別警戒区域」には、一定の社会福祉施設、学校及び医療施設の建築とその他のための開発行為を制限する「オレンジゾーン」と、地域の選択として、住宅等の建築とその他のための開発行為の制限等を市町村条例で実施することができる「レッドゾーン」があります。
○この図書は、オレンジゾーンの指定区域の公示に係るものです。
○この図書に示す区域は「地形(標高)データ」を用いて計算した結果を用いており、区域境界等における微細な土地の形状を反映しておらず、津波災害特別警戒区域の対象とならない土地の部分が含まれている場合があります。

【基準水位】
○「基準水位」は、法第53条第2項に基づく水位で、津波の発生時における避難施設の避難上有効な高さ等の基準となるものです。
○「基準水位」は、津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物への衝突による津波の水位の上昇を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位であり、地盤面からの高さ(メートル単位)で表示しています。
(下図参照) 津波



【地形(標高)データ】
○基準水位の算出に用いた「地形(標高)データ」は、平成24年度時点の海岸における3D電子地図、基盤地図情報等をもとに作成しているため、その後の開発に伴う

基準水位という津波**リスクの情報**を

組合の**取り組みを検討するための情報**として積極的に活用

今後の展開（スケジュール）

H29.9

がんばる“地域宣言”作成

H30.12

地区防災計画作成

H31.2

地域防災計画へ位置づけ
（伊豆市防災会議）

市では19団体での作成を目指す！

H31～

地区防災計画 見直し

備蓄に関する調査

H29.3

連携訓練（年2回程度）

今後の展開（わたしたちの思い）

- 災害への備えを**地域の魅力、価値の向上**にむすびつけ！
- 地区防災計画，津波防災地域づくりを**地域づくりのエンジン**として位置づけたい！
- **地域の持続性**を高め、かつ、**安心して観光客を呼び込める土肥**をつくりたい！
- 観光面から**新たな制度を提案**したい！

最後に

みなさまのご来訪を
こころよりお待ちしております

ご清聴ありがとうございました